

登録コード	L1420200	開講年度	2026	
担当教員	前田 豊	副担当		
授業科目	社会学概論Ⅱ			
英文授業名	Introduction to Sociology II			
授業タイトル	社会学入門			
単位数	2	対象学生		講義期間 後期 曜日・時限 木曜・2時限
講義室	人文第4講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ			
	【2022年度以前カリキュラム対象】 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力		⇔	社会学の基本的な考え方や視点を修得し、様々な視点から社会現象を捉えることができるようになる。
	【2022年度以前カリキュラム対象】 変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力		⇔	社会学の考え方や視点を修得することで、社会現象を価値中立的に捉えることができるようになる。
	【2022年度以前カリキュラム対象】 異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力		⇔	社会学の考え方や視点を修得することで、社会現象を価値中立的に捉えることができるようになる。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降カリキュラム対象】 人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	社会学の基本的な考え方や見方を修得することができる。
	【2023年度以降カリキュラム対象】 専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】		⇔	社会学の考え方や視点を修得することで、複雑な社会現象のメカニズムを見通す能力を身につけることができる。
授業で学べる「テーマ」	多文化協働			
全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース			
授業の概要	本授業では社会学理論の系譜を踏まえつつ、種々の社会現象を読み解くための社会的な視点を身につける。具体的には、複雑な社会現象をどのような視点から定式化するのか、という社会的な視点を学習する。また、その理解を踏まえ、今日的な社会現象を理解するうえで重要となる社会学理論を実例を踏まえて紹介する。 「社会学概論Ⅰ」はさまざまな現象や問題を取り上げて、その構造と変動を解き明かす。「社会学概論Ⅱ」はさまざまな社会学理論と方法論を取り上げて、それらによって諸現象がどのように分析できるかを示す。両方を合わせて受講することによって、社会学の全体像がわかる仕組みになっている。			
授業計画	第1回 インTRODクション 第2回 デュルケームの視点：方法論的全体主義 第3回 「社会の一員」とは？社会化と地位・役割 第4回 社会からの逸脱：ラベリング・アノミー論 第5回 ウェーバーの視点：方法論的個人主義 第6回 行為をとらえる視点：理念形・合理性・社会的行為の4類型 第7回 マクロとミクロの往還：マクロ・ミクロリンケージ 第8回 今日の社会を捉える：現代社会学 第9回 小括 第10回 恵まれているのに不満？準拠集団と相対的剥奪 第11回 なぜ女性の方が賃金が高いのか？統計的差別と予言の自己成就 第12回 合理的な選択は良い結果を生み出すのか？公共財と社会的ジレンマ 第13回 人とつながることはいいこと？社会関係資本 第14回 どうして災禍は語り継がれるのか？集合的記憶 第15回 まとめ・授業アンケート			
成績評価の方法	期末課題（60%）、および学期中に実施する中間課題（40%）から総合的に判断する。			
成績評価の基準	（１）社会学理論の理解、および（２）社会現象への応用の2点について、期末試験と学期中に求める課題内容から判断し、いずれの点についても十分な達成が認められる場合には『卓越している』と評価する。十分な達成でないとしても、いずれかの点で特に優れていると判断される場合は、その程度に応じて『かなり上にある』『やや上にある』と評価し、総合的に見て一定の水準にあると判断された場合は『その水準にある』と評価する。			
事前事後学習の内容	毎回の授業では、指定された教科書以外にも参考文献・論文を紹介する。十全な理解のためには、事後的にこれらの参考文献・論文を参照し、主体的に理解を深めることが求められる。また、あくまで社会学理論は、観察される社会現象を説明・理解する枠組みであるため、日常的に雑誌や新聞、インターネット等を通して幅広く社会現象に関する具体的な知識を収集するように努めてほしい。			
履修上の注意	特になし			
質問、相談への対応	オフィスアワー、およびメール（yamaeda076[at]shinshu-u.ac.jp）で受け付ける。オフィスアワーの日時は初回の授業にて伝える。			
教科書	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編,2023,『社会学の力[改訂版]』有斐閣。			

参考書	ジグムント・バウマン、ティム・メイ,2016,『社会学の考え方(第2版)』ちくま学芸文庫. ピーター・バーガー,2017,『社会学への招待』ちくま学芸文庫. 富永健一,1995,『社会学講義』中公新書. 筒井淳也, 2020, 『社会を知るためには』ちくまプリマー新書. この他、授業中に適宜紹介する.
-----	--